公的機関の取組事例集

1. 「8 年間、職員研修による意識向上とホームページ改善の取組を継続」（東京都文京区）
2. 「県職員と県下の自治体を対象にしたウェブアクセシビリティ研修の取組」（宮城県）
3. 「過去 5 年にわたり、試験とホームページ全体の機械的な検証に基づく改善を実施」（群馬県）
4. 「ユーザー評価、運用会議等を通じてアクセシビリティを高める」（東京都杉並区）
5. 「公開している約 8,000 ページをページ単位で確認し修正」（神奈川県平塚市）
6. 「高齢者・障害者による検証結果に基づきホームページを改善」（大阪府豊中市）
7. 「ホームページ所管部署がチェックの上で公開しアクセシビリティを確保」（東京都武蔵野市）
8. 「リニューアルに先立ち掲載が不要なページ大幅削減を実施」（千葉県我孫子市）
9. 「3 か年にわたる取組により、ホームページ全体のアクセシビリティを高めるリニューアルを実施」（神奈川県川崎市）
10. 町村の取組事例
11. 地域実証の実施

    1) ウェブアクセシビリティ方針の作成（長崎県五島市）

    2) ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の作成（茨城県取手市）

【事例】

8 年間、職員研修による意識向上とホームページ改善の取組を継続

1．基本情報

団体名：東京都文京区
総ページ数：約 8,000 ページ
職員数（部署数）：約 1,800 人（49 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

2008 年から毎年継続して、公式ホームページのアクセシビリティとユーザビリティの検証、
それらの検証結果を踏まえた職員研修を実施した上で、職員による改善を実施している。アクセシビリティ確保を重視するとともに使いやすさを向上するために、2014 年 12 月にホームページをリニューアル。リニューアル公開以降も、職員研修による意識向上とホームページ改善の取組を継続している。

3．参考にしたいポイント

- 職員の異動、ホームページが新たな閲覧環境への対応等を求められる中で、職員研修を毎年継続して実施し、ホームページに関する業務におけるアクセシビリティ対応が重要であることを職員の共通理解としている。
- 「チェックツールにより問題のあるページと問題の内容を特定した上で、各所管課向けに確認対象ページのリストを作成し配付する」「期間を限定して集中的に改善作業を行ってもらうように依頼する」など、具体的な改善成果をあげるための工夫をしている。

4．苦労した点、工夫した点

- 職員研修において、アクセシビリティとユーザビリティの検証結果に基づき、公式ホームページの良い点と悪い点を具体的に例示して解説することにより、参加者の理解を深めている。
- 所管課の担当者が一定期間内に改善対応可能と考えられるテーマに絞って作業を依頼し、また改善作業後に実際に改善できているかどうか再度検証を実施することにより、アクセシビリティへの配慮に全庁を挙げて取り組んでいる。

【事例】

県職員と県下の自治体を対象にしたウェブアクセシビリティ研修の取組

1．基本情報

団体名：宮城県
県内自治体数：県及び 35 市町村

2．主な内容

NPO 法人との共催により、県職員、県下の自治体、県下の病院・学校、隣県の自治体等に幅広く参加を募り、ウェブアクセシビリティに関する研修会を開催し、県下 17 自治体を含む約 160 名が参加した。研修会では、障害者や高齢者がウェブアクセシビリティを必要とする背景について、事前に NPO 法人が実施した県下自治体ホームページのアクセシビリティに関する調査結果の説明、JIS X 8341-3:2010 や総務省「みんなの公共サイト運用モデル」に関する解説を行った。

3．参考にしたいポイント

- みんなの公共サイト運用モデル（2010 年度版）が配布される直前に東日本大震災が発生したこともあり、県内の自治体における取組が必ずしも十分でないとの認識のもと、宮城県から県下自治体に参加を呼びかけ、35 市町村のうち 17 団体の参加が得られた。

4．苦労した点、工夫した点

- 視覚障害のある講師が音声読み上げのデモンストレーション等も含めた説明を行うなど工夫した。参加者からは「障害者の方が実際に操作している様子を見ることができて勉強になった」「細かなところで配慮できていなかったことに気づくことができた」といった感想が寄せられた。
- 参加者のアクセシビリティに関する知識や関心にばらつきがあり、一部の専門的な解説については、理解が難しかったという感想もあった。

【事例】

過去 5 年にわたり、試験とホームページ全体の機械的な検証に基づく改善を実施

1．基本情報

団体名：群馬県
総ページ数：約 31,000 ページ
職員数（部署数）：約 3900 人（183 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

2010 年に JIS X 8341-3:2010 に対応したガイドラインを策定した上で、2011 年度より 5 年にわたり、毎年 JIS X 8341-3:2010 に基づく試験と、チェックツールによる公式ホームページ全体を対象とした機械的な検証を実施。目標とする等級 AA 準拠に向けて、試験及び検証結果に基づいて改善を積み重ねている。

3．参考にしたいポイント

- 原課が作成したページについて、広報課にてアクセシビリティのチェックを行った上で公開する体制としている。
- ホームページ全体の品質を検証するため、試験対象ページの選定方法としてランダムサンプリングを採用している。さらに、取組の対象である約 31,000 ページ全体について機械的な検証を併せて実施することにより、問題点をできる限り網羅的に把握するよう努めている。
- 改善すべき課題があることも含めて、試験結果をホームページで公表し、取組の実態を内外に明確に示している。

4．苦労した点、工夫した点

- ページ作成時のアクセシビリティチェックの徹底や、毎年実施している試験で指摘された問題点を改善することで、目標とする等級 AA に着実に近づいている。
- 問題が多いページの特徴は、長期間更新されていない古いページや特殊権限（広報課のチェックなしに公開可能な権限）で作成されたページであり、これらのページに対する品質の向上が今後の課題である。

【事例】

ユーザー評価、運用会議等を通じてアクセシビリティを高める

1．基本情報

団体名：東京都杉並区
対象サイト：のーまらいふ杉並
総ページ数：約 6,000 ページ
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

2007 年に障害者施策課所管のホームページとして、障害のある方への生活支援サイト「のーまらいふ杉並」を開設。以後 2015 年まで、毎年、障害者によるユーザー評価や JIS X 8341-3:2010 に基づく試験を実施し、アクセシビリティの向上に取り組んだ。また、開設当初 2 年間においては、障害者支援団体等のヒアリング調査を行い、利用者の意見を参考に利便性の向上に努めた。

3．参考にしたいポイント

- 全盲（音声読み上げソフト）、弱視（拡大表示）、肢体不自由（マウスを利用できない）の利用者に協力を得てユーザー評価の取組を実施し、障害者がホームページを利用する際に実際に直面する問題点・課題を把握し、改善を行った。（例：拡大表示する利用者が、ページ下部の「サイトマップ」のリンクに気づけなかったため、ページの上部に移動した）
- 障害者から具体的な指摘を得ることにより、担当職員の理解が深まり、日頃から障害者の利用をイメージしながらホームページを作成できるようになった。
- 同様の取組を毎年繰り返し、2013～2015 年の試験において等級 AA 準拠を確認。

4．苦労した点、工夫した点

- 障害者関連の所管課や施設の職員、広報課のホームページ担当者、CMS 運用事業者、コンサルティング事業者等が参加する運用会議を年に数回開催。関係メンバー全員で、ユーザー評価等で確認された問題点・課題を共有した上で、改善方法を協議し、具体的な改善に結びつけた。

※2016 年 1 月に杉並区全体のウェブサイト再構築を実施し、「のーまらいふ杉並」は公式ホームページに統合した。現在は、上記事例と異なる形態で運用している。

【事例】

公開している約 8,000 ページをページ単位で確認し修正

1．基本情報

団体名：神奈川県平塚市
総ページ数：約 8,000 ページ
職員数（部署数）：約 1,700 人（77 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

2013 年に決めたアクセシビリティ方針を目標期日までに実現するために、2013 年度に公開していた約 8,000 ページについて 1 ページずつアクセシビリティを満たしているかどうか確認を実施。問題のあるページについて、各課の担当者に修正を指示した後、試験を実施した。目標が達成できていないことが判明し、2014 年度に引き続き確認と改善を行い試験を実施し、等級 AA に準拠した。

3．参考にしたいポイント

秘書広報課広報担当は、管理職 2 名、広報紙担当 4 名、報道・CMS（ホームページ）担当 2 名で構成されるが、ノウハウが適切に引き継がれるように異動のタイミングや体制を考慮するなどの工夫によって、課員のほとんどが何らかの形でアクセシビリティを含むホームページの経験を持つようになっている。8,000 ページの確認は、秘書広報課広報担当全員で手分けして実施し、これにより更に課員のスキルと意識が向上し、その後定期的に実施しているアクセシビリティ試験について課内で試験官と修正担当者の役割を分けた対応が可能となっている。

4．苦労した点、工夫した点

- miChecker を使うとともにどうしても目視による確認が必要であるため作業量が多く、また本来の業務がある中で作業を実施するため、時間を作ることに苦労した。
- 秘書広報課の課員のアクセシビリティスキルの差を埋め、かつ作業効率を上げるために簡易マニュアルを作成し、都度追加修正を加えて使いやすくした。

【事例】

高齢者・障害者による検証結果に基づきホームページを改善

1．基本情報

団体名：大阪府豊中市
総ページ数：約 7,500 ページ
職員数（部署数）：約 160 人（約 160 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

豊中市ホームページのアクセシビリティを確認し改善に役立てることを目的に、市内在住の高齢者・障害者に協力を求めユーザー評価の取組を実施。確認された問題点に基づいて改善を行っている。平成 27 年度（2015 年度）の取組においては、高齢者８人（男性４人、女性４人）、視覚障害者３人、肢体不自由者３人を対象に実施した。

3．参考にしたいポイント

- JIS X 8341-3:2010 の達成基準を満たすことを機械的に確認することに加えて、高齢者・障害者に設定したシナリオに沿ってページを閲覧・操作してもらう取組を行うにより、改善検討に役立てた。
- 高齢者や障害者が、どのような箇所でどのような問題に直面するかを具体的に確認することにより、アクセシビリティ対応の必要性と改善すべき問題について、具体的に理解することができた。

4．苦労した点、工夫した点

- 各課の職員を対象にしたウェブアクセシビリティ研修を毎年度実施しているが、実際のページ作りにおいて生かされていないケースもあることから、職員の意識向上、知識習得が引き続き課題である。
- 部局等が独自に作成し公開しているホームページにおけるアクセシビリティへの対応については、十分にされているとは言い難く、今後の課題である。

【事例】

ホームページ所管部署がチェックの上で公開しアクセシビリティを確保

1．基本情報

団体名：東京都武蔵野市
総ページ数：約 10,000 ページ
職員数（部署数）：約 940 人（57 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

原課にて作成したページを、公式ホームページを所管している秘書広報課が、アクセシビリティ等をチェックした上で公開する体制としている。
2013 年度、2014 年度に、JIS X 8341-3:2010 に基づく試験を実施。2015 年 3 月の試験において等級 AA 準拠を確認した。

3．参考にしたいポイント

- 原課において、CMS の機能として備わっているチェックツールなどで確認した上で、秘書広報課に公開申請することとしているが、チェックツールなどでは確認することができない事項を秘書広報課にて重点的に確認している。（例：表組みの構成やセルの読み上げ順序、代替テキストの表現など）
- 秘書広報課による確認の結果、問題があった場合は差し戻しを行うため、そのことによって、アクセシビリティを確保するとともに、原課の職員の意識向上と知識習得を促している。
- 2014 年度末に等級ＡＡ準拠達成を目標に、方針を設定。2013 年度の試験では問題が検出され達成できなかったが、試験結果をホームページで公表の上で、職員による改善と業者によるシステム改修等を実施し、目標達成時期である翌年度に等級 AA 準拠を達成した。

4．苦労した点、工夫した点

- 人事異動などで原課のホームページ担当者が替わった場合にもアクセシビリティに配慮したページが作成できるよう、アクセシビリティなどに関する職員研修を持続的に実施している。

【事例】

リニューアルに先立ち掲載が不要なページ大幅削減を実施

1．基本情報

団体名：千葉県我孫子市
総ページ数：約 5,000 ページ
職員数（部署数）：約 1,200 人（55 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

2014 年度から 2015 年度にかけて実施したリニューアルの業者選定に先立ち、公開ページの確認を行い、引き続き掲載が必要なページと不要なページの取捨選択を行い、約 2,000 ページを削減した上で全ページを対象にウェブアクセシビリティの改善を含むリニューアルを実施した。

3．参考にしたいポイント

不要なページの大幅削減を実施したことによりリニューアルの費用を削減するとともに、リニューアルプロジェクトにおいて、公式ホームページ全体を対象に同一水準のウェブアクセシビリティ改善を行うことを可能とした。

4．苦労した点、工夫した点

- 更新頻度の少ないページや、閲覧が著しく少ないページを削除することへの反発があったが、思い切って削除したところ、特に不満の声はない。
- リニューアル前は部署ごとになっている部分が多かった分類を全て市民目線で見直し、ページの探しやすさを最優先した。
  例：保育課・教育委員会で分かれていた子育て関係のページを「子育て・教育・生涯学習」にまとめた
- 余裕のあるリニューアルスケジュール（10 か月間）で、移行にも 2 か月を設定したが、アクセシビリティに欠けるページが多く、品質確保に苦労した。

【事例】

3 か年にわたる取組により、ホームページ全体のアクセシビリティを高める

リニューアルを実施

1．基本情報

団体名：神奈川県川崎市
総ページ数：約 48,000 ページ
職員数（部署数）：約 13,000 人（600 部署）
CMS 導入の有無：あり

2．主な内容

約 65,000 ページ（当時）という大規模なホームページについて、準備開始からリニューアル公開まで約 26 か月（準備約 12 か月、リニューアル作業期間約 14 か月）かけて、アクセシビリティ対応を含む探しやすさ・使いやすさの改善、ホームページ全体への CMS 導入等を実施し、2012 年 10 月にリニューアル公開した。（等級 AA に準拠）

3．参考にしたいポイント

- 問題点の分析、調達仕様書の作成等の準備、コンテンツ移行について、それぞれ十分な期間を確保することで、ホームページ全体を対象にアクセシビリティを向上した。
- JIS X 8341-3:2010 の達成基準を満たすための達成方法、ページの種類に応じた改善のルールを整備した上で、リニューアル作業を実施することで、統一的な改善を行った。
- CMS の操作研修とは別に、毎年アクセシビリティに関する職員研修を開催し、インターネット広報の重要性、アクセシビリティの必要性、ページ作成時に注意すべき事項について周知している。

4．苦労した点、工夫した点

- リニューアルに先立ち約 2 万ページを削減することにより、作業対象のページ数を必要最小限とした。
- 公式ホームページを所管する広報課と、区、交通、教育、外国語等、各個別サイトの管理者、運用支援業者が参加する運用会議を月例で開催し、ホームページの課題について協議し改善に活かしている。

町村の取組事例

◆ A町

- 平成 23 年に CMS を導入し、各課でページを作成・公開している。
- 公開前にホームページ管理部署によるチェックを行わないため、アクセシビリティ対応は各課作業に委ねられてしまっている。
- 制作のルールをマニュアル化し各課に配付。職員研修を毎年実施しているが、出席者が少なく、広く周知できていない。
- ホームページ担当職員は専任ではなく、他業務を併任している。
- 前任者からはウェブアクセシビリティに関する引き継ぎはなかった。次回の異動の際には、「みんなの公共サイト運用ガイドライン」を取組根拠資料として引継ぐ予定である。

◆ B村

- CMS を用いてページ作成する際のルールを手順書として各課に配布している。
- ウェブアクセシビリティ対応を十分に実施するための予算が思うように取れない。
- ホームページ担当職員は専任ではなく、他業務が多数割り当てられている。
- 地元の業者がホームページの運用を担当しているが、ウェブアクセシビリティに関する意識と知識が乏しい。
- 来年度リニューアルを予定しており、ウェブアクセシビリティをできるだけ確保すべく努力する。

○地域実証の実施

総務省は「みんなの公共サイト運用ガイドライン」に従い、地方公共団体2団体にてウェブアクセシビリティ対応の取組を実施した。

地域実証の対象団体

団体名	実証内容
長崎県五島市	ウェブアクセシビリティ方針の作成
茨城県取手市	ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表の作成 • 団体全体としての取組確認・評価表 • 個々のホームページの取組確認・評価表

■長崎県五島市

○実施日程と内容

- 平成 28 年 12 月 8 日
  事務局アライド・ブレインズが五島市役所を訪問し、実証評価の趣旨の説明、ウェブアクセシビリティ方針作成に向けたヒアリングと意見交換を行った。
- 平成 29 年 1 月 19 日
  事務局アライド・ブレインズが五島市役所を訪問し、12 月 8 日のヒアリング及び意見交換の内容を踏まえて作成したウェブアクセシビリティ方針の文章の案を提示した。内容を確認し意見交換を行った。

○五島市ホームページの現状

2010 年度に長崎県五島市公式サイト「まるごとう」を構築し、その後 2012 年度にホームページの刷新を行った。

- アドレス:http://www.city.goto.nagasaki.jp/
- 総ページ数:約 10,000 ページ
- 運用方法:コンテンツ管理システム(CMS)によりページを作成

○五島市によるウェブアクセシビリティ現状把握の取組

五島市では、長崎県五島市公式サイト「まるごとう」のウェブアクセシビリティ対応が十分でないとの問題意識のもと、2016 年 10 月にウェブアクセシビリティの現状を把握するための調査を実施した。どのような問題点がどの程度のページに発生しているか、ウェブアクセシビリティの問題が CMS による管理形態の違い(テンプレートの違い等)に起因し発生していることがないかを確認するために、調査は五島市公式サイト(http://www.city.goto.nagasaki.jp/)の公開している全ページを対象に実施することとした。

総務省の提供するチェックツール miChecker の基準により、全ページを対象に機械的な検証を行った結果、JIS X 8341-3:2016 の達成基準に関わる多数の問題があることが確認された。

○ウェブアクセシビリティ方針の作成過程で検討した内容

本実証評価では、五島市の実施した上記調査結果を踏まえ、五島市のウェブアクセシビリティ方針を検討した。検討においては、「調査により確認された問題を改善するために、どのような取組をどのような手順で実施すべきか」が大きな課題となった。事務局アライド・ブレインズと協議の上で、問題を改善するために大きく分けて以下の 2 つの取組を行う必要性を確認した。

1) 職員による改善を行う（記事の内容や構成に関わる問題など）
2) 次期リニューアル実施時に、事業者の支援を得て改善を行う（ホームページ全体に適用されているデザインの問題、CMS の機能の課題など）

また、目標とする期限と適合レベルについて、次期リニューアル実施時に JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA 準拠することと設定した。今後、以下の事項について、外部の支援も得ながら取組を進行する予定である。

- 職員が改善すべき問題点について、どの問題から優先的に取り組むか
- 職員の負担ができるだけ少なくかつできるだけ効果的に改善作業を進めるために、どのように取組を計画したら良いか
- 次期リニューアルに向けた準備をどのように行っていくか

上記の検討をふまえ、ウェブアクセシビリティ方針を構成する内容として確認した事項は以下のとおりである。

（1）JIS 対応に取り組む対象範囲
- 優先的に取り組む対象を長崎県五島市公式サイト「まるごとう」（http://www.city.goto.nagasaki.jp/）のうち、現状 CMS で管理しているページとする。
- 例規集については、五島市で編集できるものではないことから例外とする。

（2）JIS 対応の期限
- 職員により早期に対応が可能なものから段階的にウェブアクセシビリティの改善に着手する。
- 次期リニューアルにおいて、デザインを含めたウェブアクセシビリティ対応を実現する。

（3）適合レベルと対応度
- 現時点の目標として、次期リニューアルにおいて、JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠することを目標とする。
- リニューアルに向けた準備及びウェブアクセシビリティ改善を行う過程で、目標とする適合レベルと対応度について、必要に応じて見直しを行う。

○ウェブアクセシビリティ改善に向けて予定する取組
- リニューアルに先立って、早期に対応が可能なものから順次改善を進める。
- 2017 年度より改善に着手する事項について以下を予定する。
  (ア) 画像の代替テキスト
  (イ) ページタイトル

○実証評価の成果

五島市公式サイトウェブアクセシビリティ方針文案

1．五島市の取組

（1）背景

ホームページ等を高齢者や障害者を含む誰もが利用できるものとすることをウェブアクセシビリティと言います。ウェブアクセシビリティを確保するための基準が日本工業規格 JIS X 8341-3:2016 として定められており、総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016 年版）」は、公的機関が提供するホームページ等を JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠することを求めています。

（2）現状把握調査を実施

五島市では、2016 年 10 月に五島市公式サイト（http://www.city.goto.nagasaki.jp/）の公開している全ページを対象に、ウェブアクセシビリティの現状を把握するための調査を実施しました。

（3）改善の取組みに着手

調査によって明らかになった問題点のうち、早期に対応が可能なものから順次改善を進めてまいります。2017 年度より改善に着手する事項は以下のとおりです。

- 音声読み上げソフトの利用者に向けた画像の説明文（代替テキスト）が適切でなく、情報が適切に伝わらない箇所がある。
- ページの内容を適切に表したタイトルになっていないページがあり、検索結果などから情報を探しづらい場合がある。

（4）リニューアルを含めた改善

五島市公式サイトの次期リニューアルにおいて、公式サイト全体のデザインに関わる事項を含めたウェブアクセシビリティの改善に取組み、総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016 年版）」が求める JIS X 8341-3:2016 適合レベル AA 準拠を目指します。

2．今後の目標（ウェブアクセシビリティ方針）

（1）対象範囲

五島市公式サイトホームページ（http://www.city.goto.nagasaki.jp/）

（2）目標を達成する期限

平成 31 年度末まで

(3) 目標とする適合レベルと対応度

JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA 準拠

JIS X 8341-3:2016 には A、AA、AAA の 3 つの適合レベルがあります。「適合レベル AA に準拠」とは、適合レベル A 及び適合レベル AA の全ての達成基準を満たすことを意味します。この表記方法は、情報通信アクセス協議会ウェブアクセシビリティ基盤委員会「「ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン - 2016 年 3 月版」で定められた表記によるものです。

(4) 例外事項

以下のページは当面の取組み対象から除外します。

- http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/の直下以外のもの
- 五島市便利マップ（http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/map）
- 例規集（http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/city_ad/rule）
- 市議会だより
  （http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/city_gad/shigikai_magazine.php）

PDF ファイルについてはこのウェブアクセシビリティ方針に含めませんが、今後作成するものについて、可能な範囲で HTML ページをあわせて用意するなどの対応を行います。

■茨城県取手市

○実施日程と内容

- 平成 28 年 12 月 26 日
  事務局アライド・ブレインズが取手市役所を訪問し、実証評価の趣旨の説明、ウェブアクセシビリティ取組確認・評価にむけたヒアリングと意見交換を行った。
- 平成 29 年 2 月 13 日
  事務局アライド・ブレインズが取手市役所を訪問し、12 月 26 日のヒアリング及び意見交換の内容を踏まえて、取手市にて検討した作成したウェブアクセシビリティ取組確認・評価結果を確認するとともに、内容を確認し意見交換を行った。また、ウェブアクセシビリティ取組確認・評価結果表を用いた確認・評価の過程で検討した事項をヒアリングした。

○取手市ホームページの現状

1999 年度に取手市公式ホームページを構築し、CMS 導入など数回のリニューアルを経て、直近では 2015 年度にホームページのリニューアルを行った。

- アドレス:http://www.city.toride.ibaraki.jp/
- 総ページ数:約 10,000 ページ
- 運用方法:コンテンツ管理システム(CMS)によりページを作成

○取手市によるウェブアクセシビリティ対応の取組と今後の課題

取手市では、各課で CMS を用いて作成したページを公式ホームページの所管部署である魅力とりで発信課の担当者が確認したうえで公開している。

ウェブアクセシビリティの確保を重視し実施した 2015 年度のホームページリニューアルをふまえ、2016 年度は公式ホームページの全ページを対象にウェブアクセシビリティ等の検証を実施した。

このほか、2009 年度より職員を対象にウェブアクセシビリティの研修を継続的に実施しており、2016 年度はウェブアクセシビリティ対応の水準をより一層高めることを目指して外部講師を招き実施した。ウェブアクセシビリティの職員研修について、来年度以降も継続する予定である。

これまでの取組は公式ホームページを対象としたものであり、関連サイト等の他のホームページ等については取組状況を把握できていない(2014 年度に一度、市関連サイトの管理者・所管課を集めて勉強会を開催した経緯がある)。当面の取組課題は以下のとおりである。

1) 公式ホームページのウェブアクセシビリティ対応について、定期検証、職員研修等を継続して実施することにより、引き続き推進する。
2) ウェブアクセシビリティ対応の対象となるホームページ等の定義を明確化した上で、全庁に照会し、取組対象の現状を把握する。
3) 関連サイト等の他のホームページ等も適用対象としたガイドラインを策定する。

○「団体全体としての取組確認・評価表」の検討過程で確認された事項

本実証評価においては、取手市によるこれまでのウェブアクセシビリティ対応の取組状況と今後の課題について、ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表を用いて確認し、評価結果を取りまとめた。

「団体全体としての取組確認・評価表」の検討過程で確認された事項は以下のとおりである。

(1)対象の把握

- みんなの公共サイト運用ガイドラインにおいて、「ウェブアクセシビリティへの対応が求められている対象は、各団体が作成し運用する全てのウェブコンテンツです。」と記載がある点について、具体的にどのようなホームページ等を対象とすべきか定義することが難しい。
- 取手市において、ウェブアクセシビリティ対応の対象となるホームページ等をどのように定義するかは今後の検討課題であるが、一つの考え方として「団体の長(市長)の権限が及ぶ範囲」と定義とする案が挙げられた。

(2)団体として統一したガイドラインの策定

- 取手市ではウェブアクセシビリティに関するガイドラインを策定しているが、これはあくまでも公式ホームページを対象に運用しているものであり、関連サイト等の公式ホームページ以外の様々なホームページ等に適用するルールとして位置付けられたものではない。
- 本実証評価で実施したウェブアクセシビリティの取組確認・評価においては、上記の認識をふまえ、「団体として統一したガイドラインの策定」の評価を「団体内で使用するガイドラインを策定していない(0 点)」とした。

(3)公式ホームページ(公式ホームページのスマートフォン向けサイトを含む)

- 取手市公式ホームページで公開するコンテンツのうち、例規集について、職員が作成を行っているものではなく、現時点で改善の見込みが立たないことから、ウェブアクセシビリティ方針において、当面の取組対象から除外している。
- 本実証評価で実施したウェブアクセシビリティの取組確認・評価においては、「公式ホームページ(公式ホームページのスマートフォン向けサイトを含む)」の評価について、「全 HTML を対象として・・・取り組んでいる」として良いかどうかが議論となったが、例規集以外の全てのコンテンツを対象として取り組んでいること、例規集については極めて事情の異なるコンテンツであるとの判断から、「全 HTML を対象としてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し、方針の見直しを行いながら取り組んでいる(3 点)」とした。

（4）公式ホームページ以外のサイト等（関連サイト／ウェブアプリケーション、ウェブシステム／スマートフォン向けサイト／携帯電話向けサイト等）

評価項目のタイトルに「スマートフォン向けサイト」の記載があるが、公式ホームページのスマートフォン版に関しては、「公式ホームページ（公式ホームページのスマートフォン向けサイトを含む）」で評価した。

（5）民間に管理を委託（指定管理者による管理等）する施設等のホームページ等

- 評価項目のタイトルに「施設等」と記載があることから、対象が施設に関係するものであるとの印象に繋がり、どの範囲までを対象として評価すべきか分かりにくい。
- 本実証評価で実施したウェブアクセシビリティの取組確認・評価においては、「公式ホームページ以外のサイト等（関連サイト／ウェブアプリケーション、ウェブシステム／スマートフォン向けサイト／携帯電話向けサイト等）」の評価対象は「取手市が直接運営するもの」、「民間に管理を委託（指定管理者による管理等）する施設等のホームページ等」の評価対象は「民間に委託し運営するもの」と定義して評価した。

○「個々のホームページの取組確認・評価表」の検討過程で確認された事項

公式ホームページを対象に実施した「個々のホームページの取組確認・評価表」の検討過程で確認された事項は以下のとおりである。

（1）ガイドライン

- 取手市ではウェブアクセシビリティに関するガイドラインを策定しているが、これはあくまでも公式ホームページを対象に運用しているものであり、関連サイト等の公式ホームページ以外の様々なホームページ等に適用するルールとして位置付けられたものではない。
- 本実証評価で実施したウェブアクセシビリティの取組確認・評価においては、上記の認識をふまえ、「ガイドライン」の評価を「団体として策定した共通のガイドラインがない、或いはガイドラインがあるかどうかわからない（0 点）」とした。

（2）職員研修、検証、改善

これらの中には、外部からの支援を得て実施することを検討しているものが含まれる。予算が確定していない段階で、「来年度以降も継続する予定である」と評価して良いかどうか議論となったが、実施を目指して検討し予算を申請している状況をふまえて、「来年度以降も継続する予定である」と評価した。

（3）取組の実現内容

みんなの公共サイト運用ガイドライン 124 ページの「「取組の実現内容」について、初めて「取組確認・評価表」を用いて取組の確認・評価を行った年は、3 点とします。」の内容を踏まえ、3 点とした。

(4)アクセシビリティの実現内容

2015 年度のリニューアルの過程で、リニューアルを担当した事業者が JIS に基づく検証を実施しているが、結果の公開は行っていないことから、「過去 3 年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新の JIS X 8341-3 に基づく試験による確認を行っていない(0 点)」とした。

(5)利用者の意見収集

- 取手市公式ホームページでは、ウェブアクセシビリティ方針を掲載したページに、公式ホームページ全体の共通の仕組みとして用意している問合せフォームが表示される。
- この問合せフォームについては、1点の評価として記載されている「アクセシビリティについて積極的な意見収集に取り組んでいる」には当てはまらないと考え、「一般的な意見収集としては取り組んでいるが、アクセシビリティについて積極的な意見収集には取り組んでいない(0 点)」とした。

(6)利用者との協力体制／ユーザー評価

現時点の評価は、「アクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)へ協力を求めたことがない(0 点)」である。「利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の声を聴取し、ホームページの改善を行ったことがある」に関しては、今後実施を検討する。

○実証評価の成果

本実証評価においては、取手市によるこれまでのウェブアクセシビリティ対応の取組状況と今後の課題について、ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表を用いて確認し、評価結果を以下のとおり取りまとめた。

現在までに実施している取組について、次年度移行できる限り継続するとともに、みんなの公共サイト運用ガイドラインに求められているその他の取組について、実施を検討していくこととする。

団体全体としての取組確認・評価表

団体名	取手市	評価実施年月日	2017年2月13日

		運用ガイドライン項番	0点	1点	2点	3点	4点	備考	ポイント集計欄 小計	ポイント集計欄 中計	満点ポイント
基本的対応の徹底	対象の把握	5.1.	団体全体としてアクセシビリティ対応の対象となるコンテンツを把握していない	公式ホームページの管理運営担当部署として分かる範囲でリスト化している	過去に団体全体としてアクセシビリティ対応の対象となるコンテンツを洗い出し把握したことがある	団体全体として定期的にアクセシビリティ対応の対象となるコンテンツを洗い出し把握している	団体全体として定期的にアクセシビリティ対応の対象となるコンテンツを一般に公開しない職員向けのものも含めて洗い出し把握している		1	1	8
	団体として統一したガイドラインの策定	6.1.	団体内で使用するガイドラインを策定していない	団体内で使用するガイドラインを策定している	団体内で使用するガイドラインを、ウェブアクセシビリティ方針で目標としている達成基準を網羅し策定している	団体内で使用するガイドラインを策定しており、最新のJIS X 8341-3に対応している	最新のJIS X 8341-3に対応するとともに毎年アクセシビリティに関するガイドラインを確認し、必要に応じて見直している		0		
段階的拡大	公式ホームページ（公式ホームページのスマートフォン向けサイトを含む）	5.1. 5.2. 5.3.	ウェブアクセシビリティ方針の策定・公開を行っていない	ウェブアクセシビリティ方針を策定したが公開していない	全HTMLを対象としてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し取り組んでいる	全HTMLを対象としてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し、方針の見直しを行いながら取り組んでいる	PDF等を含む全コンテンツを対象としてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し、方針の見直しを行いながら取り組んでいる		3	3	12
	公式ホームページ以外のサイト等（関連サイト／ウェブアプリケーション、ウェブシステム／スマートフォン向けサイト／携帯電話向けサイト等）	5.1. 5.2. 5.3.	ウェブアクセシビリティ方針の策定・公開を行っていない	ウェブアクセシビリティ方針を策定している対象があるが、公開はしていない	対象の半数以上についてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し取り組んでいる	対象のすべてについてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し取り組んでいる	対象のすべてについてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し、方針の見直しを行いながら組んでいる		0		
	民間に管理を委託（指定管理者による管理等）する施設等のホームページ等	5.1. 5.2. 5.3.	ウェブアクセシビリティに関する取組を行っていない	外部発注の仕様書及び業者選定において、ウェブアクセシビリティの確保を求めている	対象の半数以上についてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し取り組んでいる	対象のすべてについてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し取り組んでいる	対象のすべてについてウェブアクセシビリティ方針を策定・公開し、方針の見直しを行いながら組んでいる		0		
									合計	4	20

個々のホームページの取組確認・評価表

ホームページ等名称	取手市公式ホームページ	団体名部署名（評価実施主体）	魅力とりで発信課
URL	http://www.city.toride.ibaraki.jp/	評価実施年月日	2017年2月13日

		運用ガイドライン項番	0点	1点	2点	3点	4点	備考	ポイント集計欄 小計	ポイント集計欄 中計	満点ポイント
継続性	ガイドライン	6.2.1	団体として策定した共通のガイドラインがない、或いはガイドラインがあるかどうかわからない	団体として策定した共通のガイドラインの存在は知っているが活用していない	団体として策定した共通のガイドラインを一部活用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用するとともに、ガイドラインの見直すべき点を洗い出し、見直しに参加している		0	12	16
	職員研修	6.2.2	過去3年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施していない、又は参加していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	過去2年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	過去1年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	毎年アクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加しており、来年度以降も継続する予定である		4		
	検証	6.2.3	過去3年以内にアクセシビリティに関する検証を実施し問題点を把握していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する検証を実施し問題点を把握した	過去2年以内にアクセシビリティに関する検証を実施し問題点を把握した	過去1年以内にアクセシビリティに関する検証を実施し問題点を把握した	毎年アクセシビリティに関する検証を実施し問題点を把握しており、来年度以降も実施する予定である		4		
	改善	6.2.5	過去3年以内に、公開しているページの改善に取り組んでいない	過去3年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	過去2年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	過去1年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	公開しているページの改善に毎年取り組んでおり、来年度以降も実施する予定である		4		
実現内容の確認と公開	取組の実現内容	7.1.	過去3年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組確認・評価表により確認していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組確認・評価表により確認し結果をホームページで公開した	過去2年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組確認・評価表により確認し結果を各ホームページで公開した	過去1年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組確認・評価表により確認し結果を各ホームページで公開した	毎年アクセシビリティに関する取組内容について取組確認・評価表により確認し、結果をホームページで公開しており、来年度以降も実施する予定である		3	3	8
	アクセシビリティの実現内容	7.2.	過去3年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 8341-3に基づく試験による確認を行っていない	過去3年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 8341-3に基づく試験により確認し、結果をホームページで公開した	過去2年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 8341-3に基づく試験により確認し、結果をホームページで公開した	過去1年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 8341-3に基づく試験により確認し、結果をホームページで公開した	毎年アクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 8341-3に基づく試験により確認し、結果をホームページで公開しており、来年度以降も実施する予定である		0		
利用者との協調	利用者の意見収集	6.3.3	一般的な意見収集としては取り組んでいるが、アクセシビリティについて積極的な意見収集には取り組んでいない	アクセシビリティについて積極的な意見収集に取り組んでいる	複数の手段により、アクセシビリティについて特化した意見収集を継続的に取り組んでいる	複数の手段により、アクセシビリティについて特化した意見収集を継続的に取り組み、ホームページ全体の改善に利用している	–		0	0	6
	利用者との協力体制／ユーザー評価	4.3.7 6.2.4	アクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者（社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む）へ協力を求めたことがない	利用者（社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む）の声を聴取し、ホームページの改善を行ったことがある	継続的にアクセシビリティをチェックするモニター制度を設け、ホームページの改善に利用している	継続的にアクセシビリティをチェックするモニター制度を設け、ホームページの改善に利用している。また、関係部署等と連携し、利用者のホームページ閲覧等のスキル向上につながる取組を行っている	–		0		
									合計	15	30